

看護実践報告書 評価項目・評価基準

【目的】

重症心身障害児者及び家族に対し、熟練した看護技術及び知識を用いた専門性・個別性の高い看護を実践し、重症心身障害看護師としての役割を遂行できたかを検証する

【記載内容】

個人、家族に対する直接的な看護実践の事例を1例記載する。以下の項目立てで記載すること。

- ① 実践テーマ
- ② 実践の対象の概要
- ③ 対応を必要とした問題点・課題
- ④ 具体的な実践内容と結果
- ⑤ 評価と今後の課題

【作成時の注意事項】

- ① パソコンで入力
- ② 文体は常体「～だ・～である」に統一されている
- ③ 文字フォントは、原則として明朝体とする
- ④ A4紙縦使用横書き、文字サイズ10.5ポイント
- ⑤ 1行の文字数は40字 1ページの行数は40行とする
- ⑥ 下段中央にページ数をいれる
- ⑦ 文字数4000～4500字、文字色 黒、最後に後ろ揃えで（〇〇〇〇字）と文字数を表記する  
1行目に中央揃えでテーマを記載、2行目から本文に入る。＊施設名・氏名は本文に記載しない。  
施設名が特定される表現は避ける。内容に倫理的問題がないか確認しておく。  
図表を使用しても構わない。（文字数に含まない）  
テーマの字数と図表、参考・引用文献は本文文字数に含まない。
- ⑧ 参考文献・引用文献の記載方法は「重症心身障害児の療育」の投稿規定に従い、文献は重要なもののみとし、引用順に文中に番号を付ける。文献は論文の最後に引用順に一括記載する
- ⑨ 参考文献・引用文献は明確に区別する。参考文献・引用文献の内容と自分の意見を明確に区別して書く。

【評価項目とそのポイント】

規定・形式	① 指定された書式が正しく守られている。 ② 文字数制限が正しく守られている。 ③ 記載内容は、項目順に記載されている。②～⑤は項目を挙げ、内容を記載している
実践内容	① 重症心身障害の特徴、年齢、発達段階等を踏まえた情報収集を行っているか ② 得られた情報を適切にアセスメントしているか ③ 対象の個別性が反映された計画が立案されているか ④ 専門性・個別性の高い看護の実践をしているか ＊③④は、対象者の権利擁護、自己決定の尊重など倫理的側面、安全かつ安楽な看護ケア、QOLの向上、他職種との連携等を含む ⑤ 看護実践の評価結果を踏まえた上で、今後の課題を述べているか
論理性	① テーマ・対象・計画・実践内容・実践結果・評価に一貫性があるか (段落のつけ方、誤字・脱字含む)

【評価基準】

- ・1つのレポートを審査員2名で審査する。
- ・規定等については4段階で（10点：非常に良い・8点：良い・6点：やや悪い・2点：悪い）で評価する。
- ・実践内容については項目ごとに4段階で（6点：非常に良い・4点：良い・2点：やや悪い・1点：悪い）5項目合計30点とする。
- ・論理性については4段階で（10点：非常に良い・8点：良い・6点：やや悪い・2点：悪い）で評価する。
- ・審査員2名の合計点が60点以上を合格とする。
- ・審査員2名の合計点数の差が20点以上の場合は審議する。

教育的支援報告書 評価項目・評価基準

【目的】

看護・療育スタッフに対し、高い倫理観と熟練した看護技術・知識を用いて教育的支援を行い、重症心身障害看護師としての役割を遂行できたかを検証する

【記載内容】

看護・療育スタッフに対する教育的支援について、実施した1例を記載する。以下の項目立てで記載すること。

- ① 教育的支援のテーマ
- ② 支援対象となった看護・療育スタッフ(個人・集団)
- ③ 支援を必要とした状況、背景
- ④ 支援内容(方法を含む)と結果
- ⑤ 評価と今後の課題

【作成時の注意事項】

- ① パソコンで入力
- ② 文体は常体「～だ・～である」に統一されている
- ④ 文字フォントは、原則として明朝体とする
- ⑤ A4紙縦使用横書き、文字サイズ10.5ポイント
- ⑤ 1行の文字数は40字 1ページの行数は40行とする
- ⑥ 下段中央にページ数をいれる
- ⑦ 文字数4000字～4500字、文字色 黒、最後に後ろ揃えで(〇〇〇〇字)と文字数を表記する  
1行目に中央揃えでテーマを記載、2行目から本文に入る。＊施設名・氏名は本文に記載しない。  
施設名が特定される表現は避ける。内容に倫理的問題がないか確認しておく。  
図表を使用しても構わない。(文字数に含まない)  
テーマの字数と図表、参考・引用文献は本文文字数に含まない。
- ⑧ 参考文献・引用文献の記載方法は「重症心身障害児の療育」の投稿規定に従い、文献は重要なもののみとし、引用順に文中に番号を付ける。文献は論文の最後に引用順に一括記載する
- ⑨ 参考文献・引用文献は明確に区別する。参考文献・引用文献の内容と自分の意見を明確に区別して書く。

【評価項目とそのポイント】

規定・形式	① 指定された書式が正しく守られている。 ② 文字数制限が正しく守られている。 ③ 記載内容は、項目順に記載されている。②～⑤は項目を挙げ、内容を記載している
実践内容	① 教育的支援のプロセスを段階的に整理して記載しているか ② 教育的支援の必要性をどのように判断(アセスメント)したかを述べているか (知識・技術・倫理的側面からアセスメント) ② 支援対象の個別性が反映された支援内容(方法)であるか ③ 支援対象に対して役割モデルを示すとともに、具体的な支援が出来ているか ④ 実施した支援内容の評価結果を踏まえた上で、役割モデルとして今後の課題を述べているか
論理性	① テーマ・対象・計画・支援内容・結果・評価に一貫性があるか (段落のつけ方、誤字・脱字含む)

【評価基準】

- ・1つのレポートを審査員2名で審査する。
- ・規定等については4段階で(10点：非常に良い・8点：良い・6点：やや悪い・2点：悪い)で評価する。
- ・実践内容については項目ごとに4段階で(6点：非常に良い・4点：良い・2点：やや悪い・1点：悪い)  
5項目合計30点とする。
- ・論理性については4段階で(10点：非常に良い・8点：良い・6点：やや悪い・2点：悪い)で評価する。
- ・審査員2名の合計点が60点以上を合格とする。
- ・審査員2名の合計点数の差が20点以上の場合は審議する。